

銀の鬼〈第十一卷〉

茶木ひろみ





秘密

銀の鬼11

茶木ひろみ

いや…
そうじゃない

ふぶきは
風祭の所に
行ったんじゃない

きのう
あのジンの
マンションから
連れ戻した時

おれの妖力で
動けなくしてはいたが
目は見えていたはず

だからふぶきが
行こうと思えば
行けるだろう

だが…

違う

キユン太

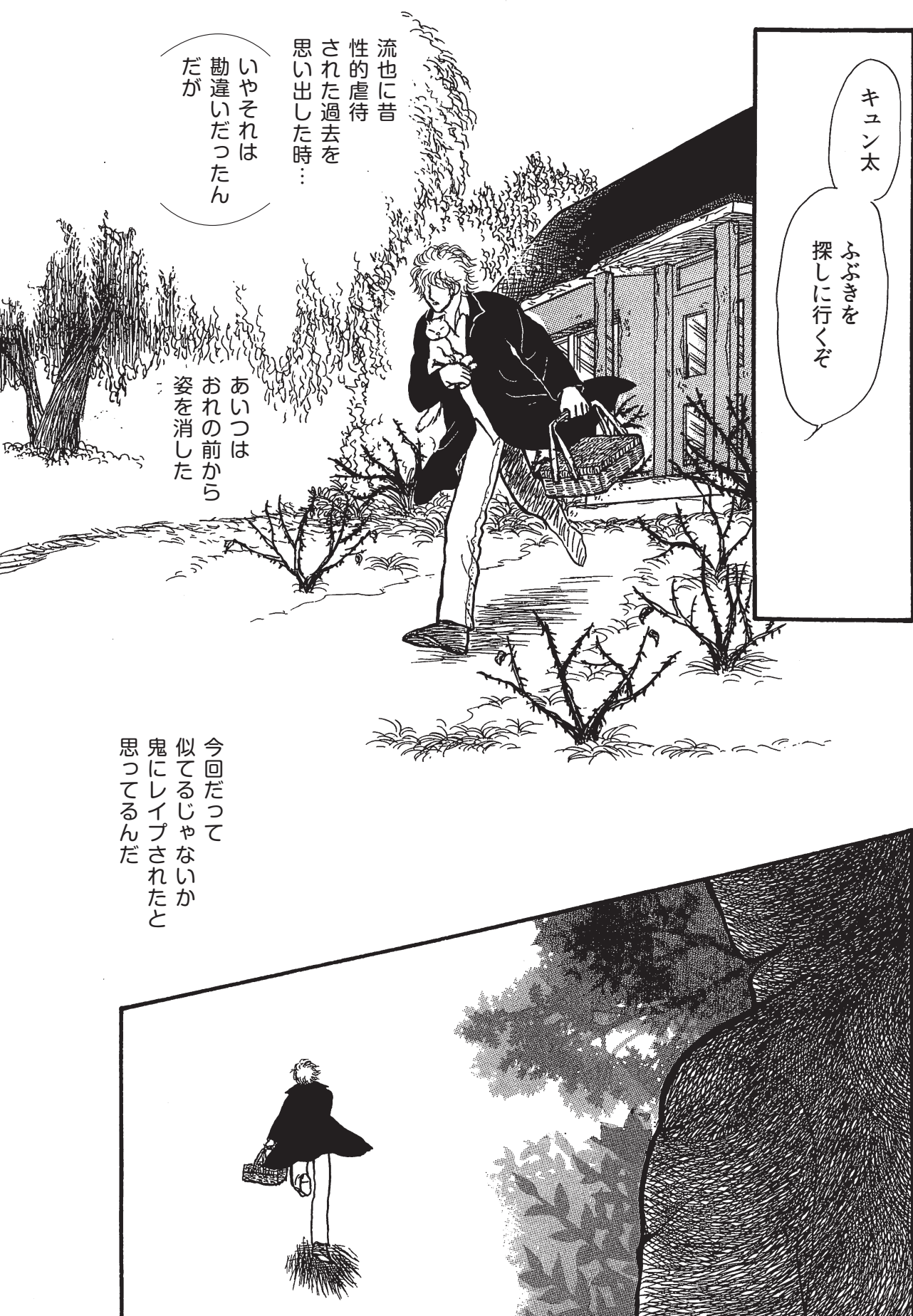
ふぶきを
探しに行くぞ

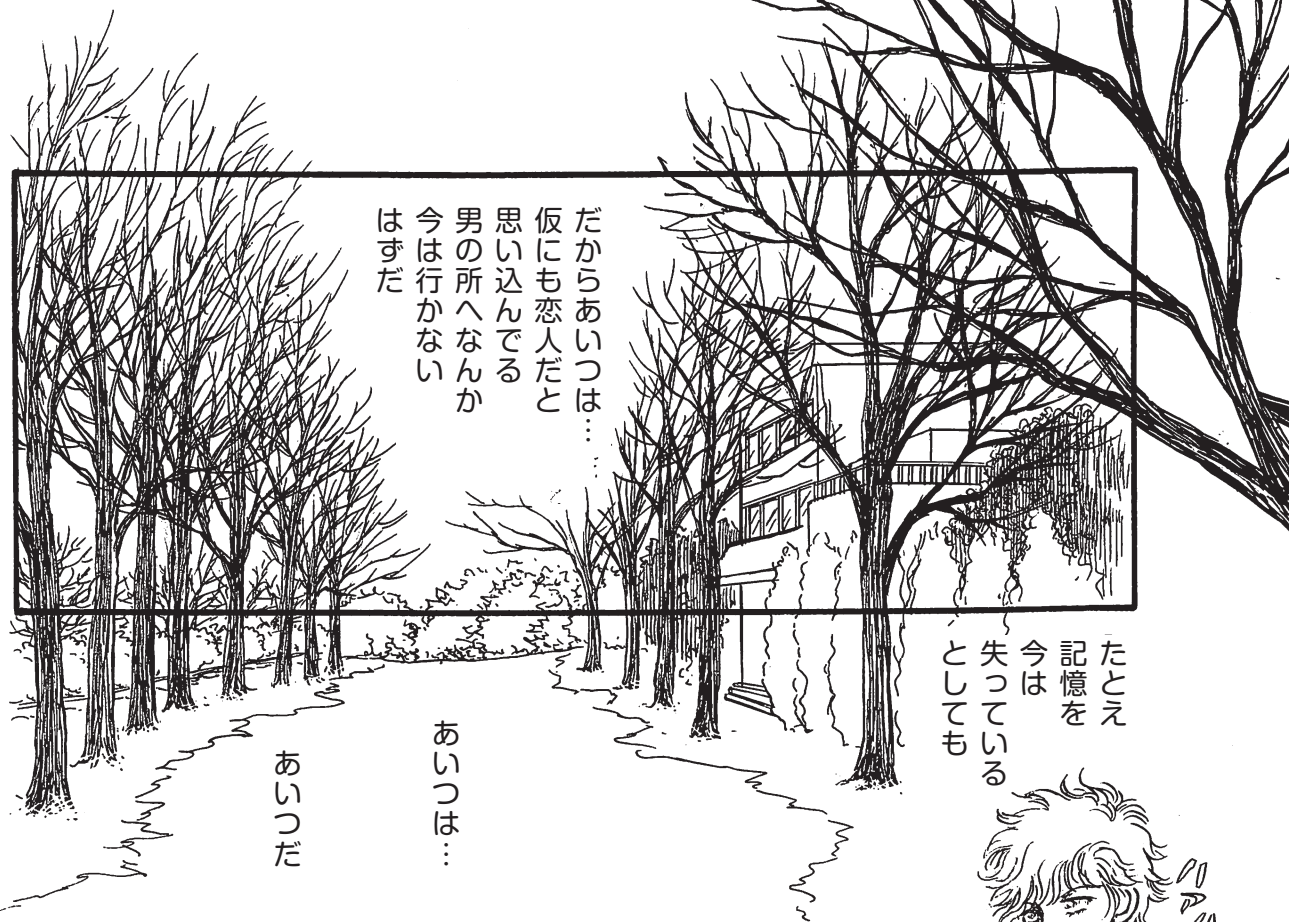
流也に昔
性的虐待
された過去を
思い出した時…

いやそれは
勘違いだったん
だが

あいつは
おれの前から
姿を消した

今回だって
似てるじゃないか
鬼にレイプされたと
思ってるんだ





だからあいつは…
仮にも恋人だと思
い込んでる男の所へ
なんか今は行かない
はずだ

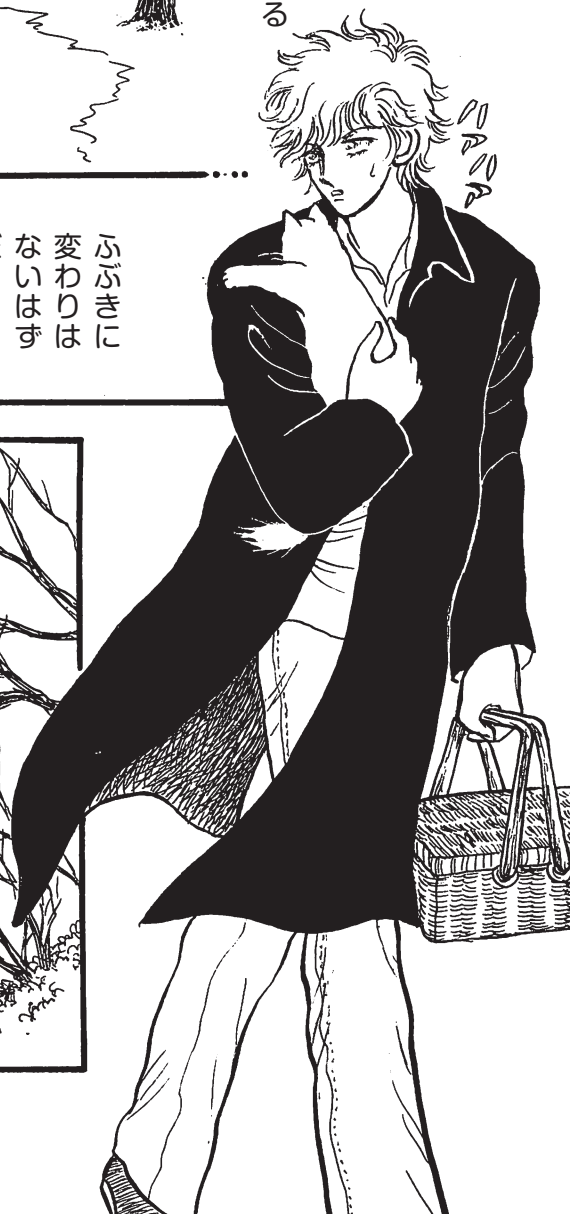
たとえ記憶を
今は失っている
としても

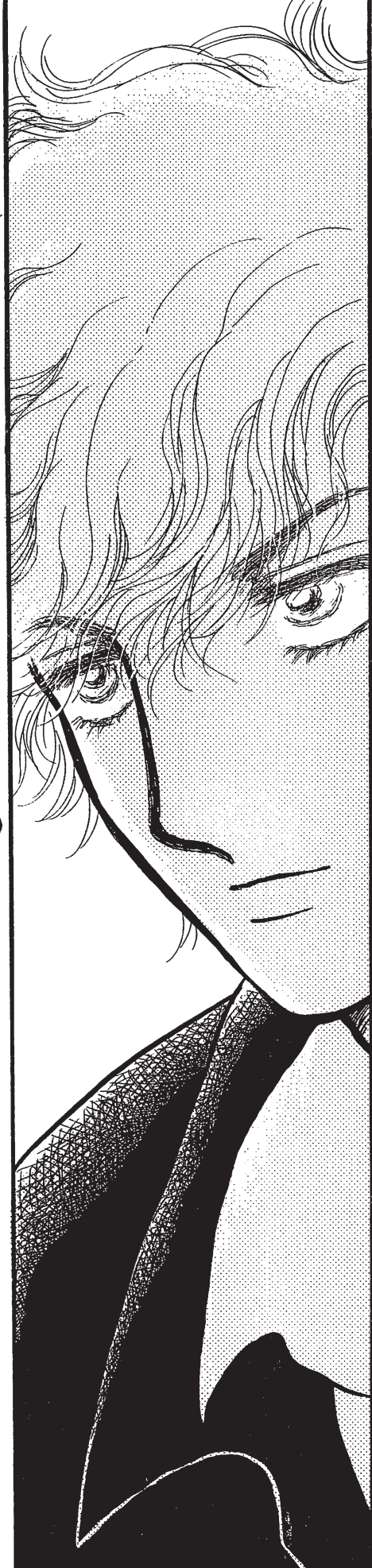
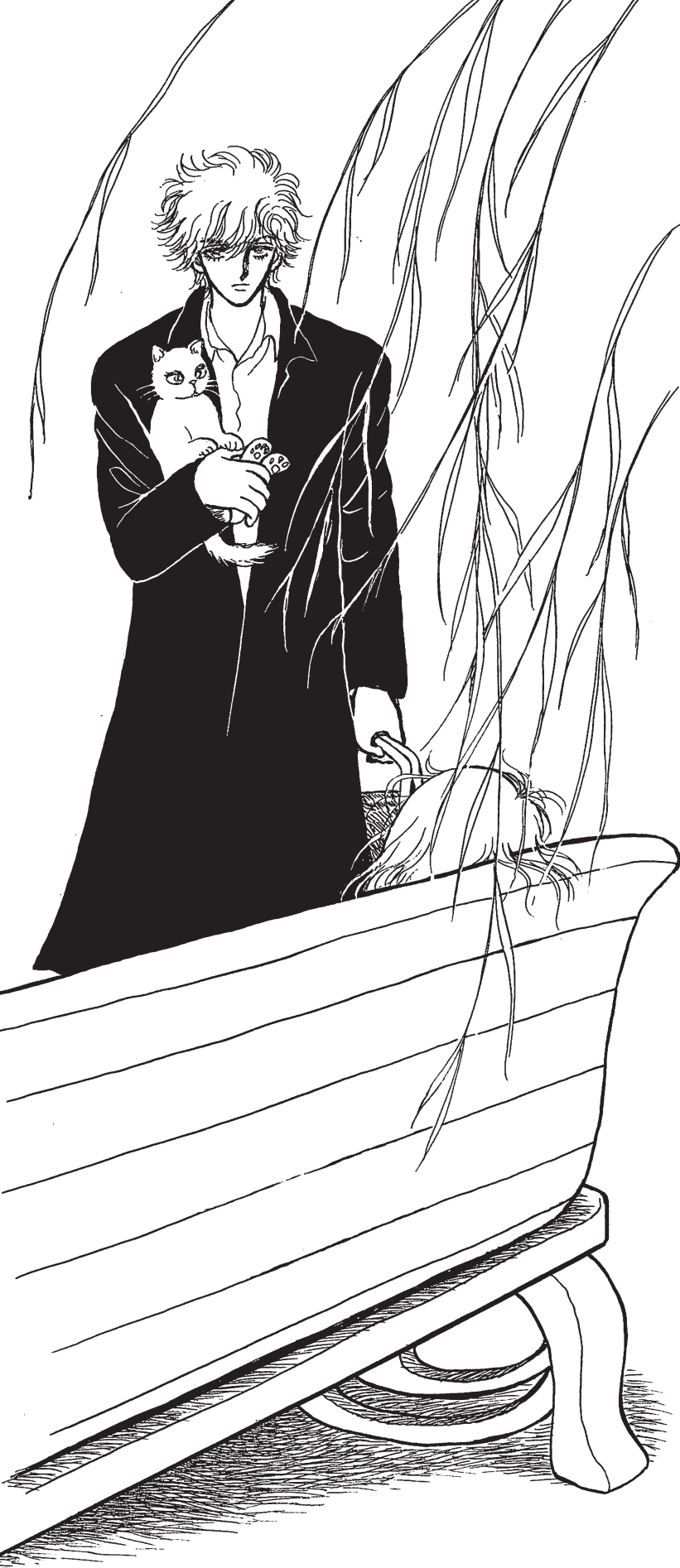
あいつは…

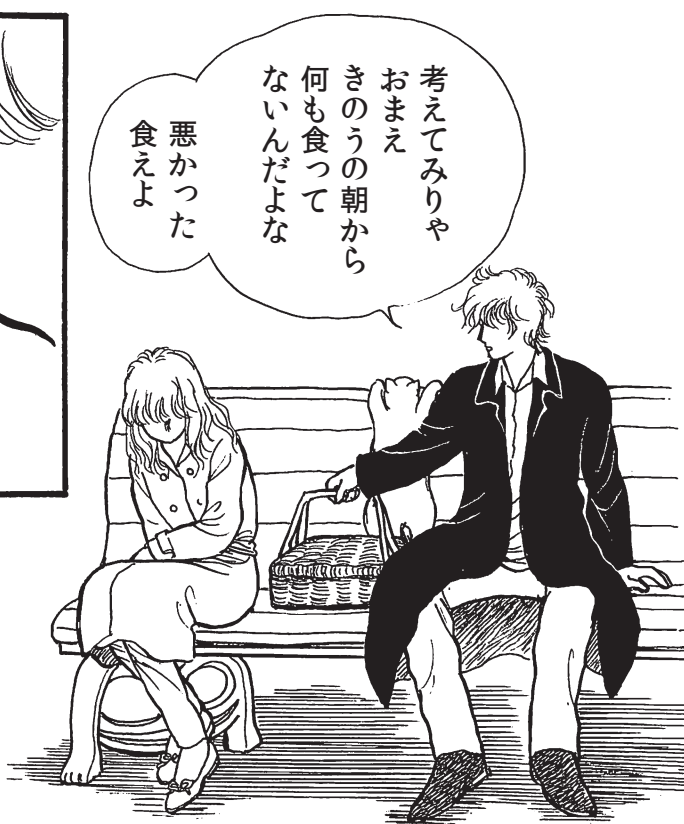
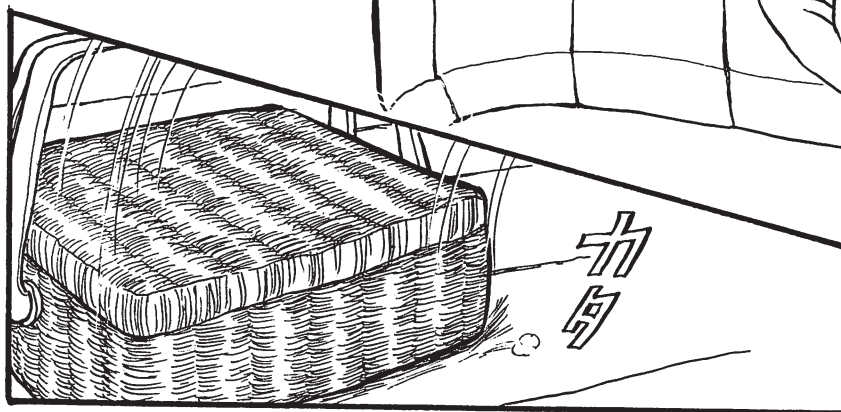
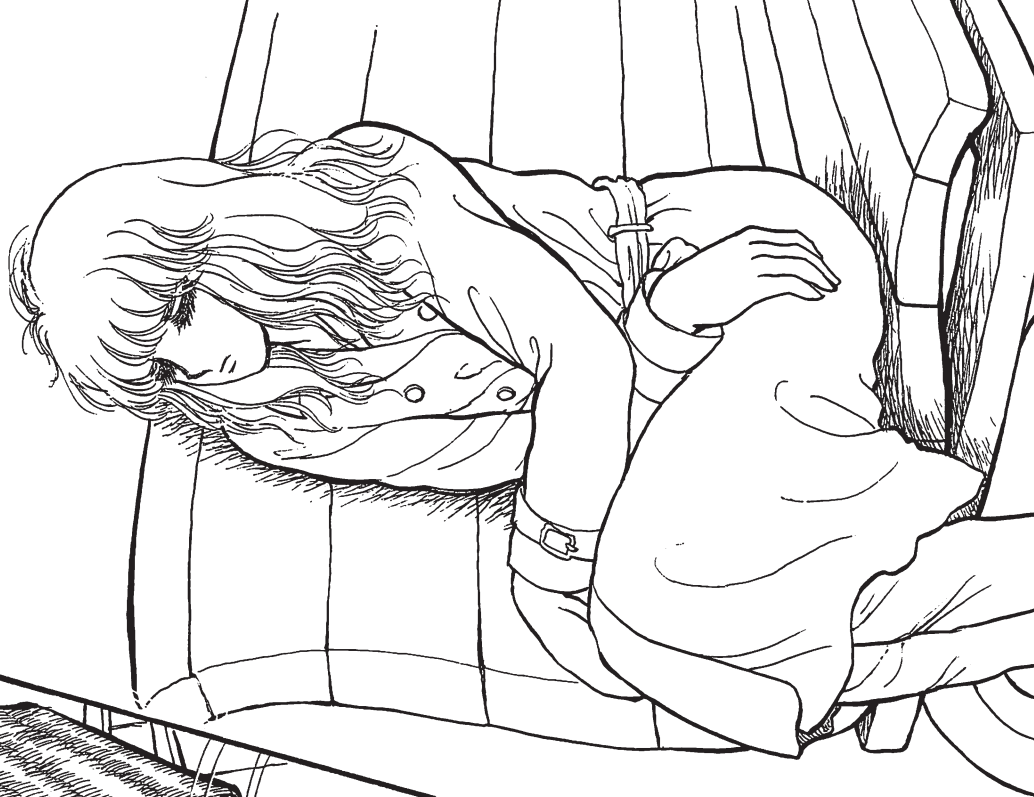
あいつだ



ふぶきに
変わりは
ないはず
だ！



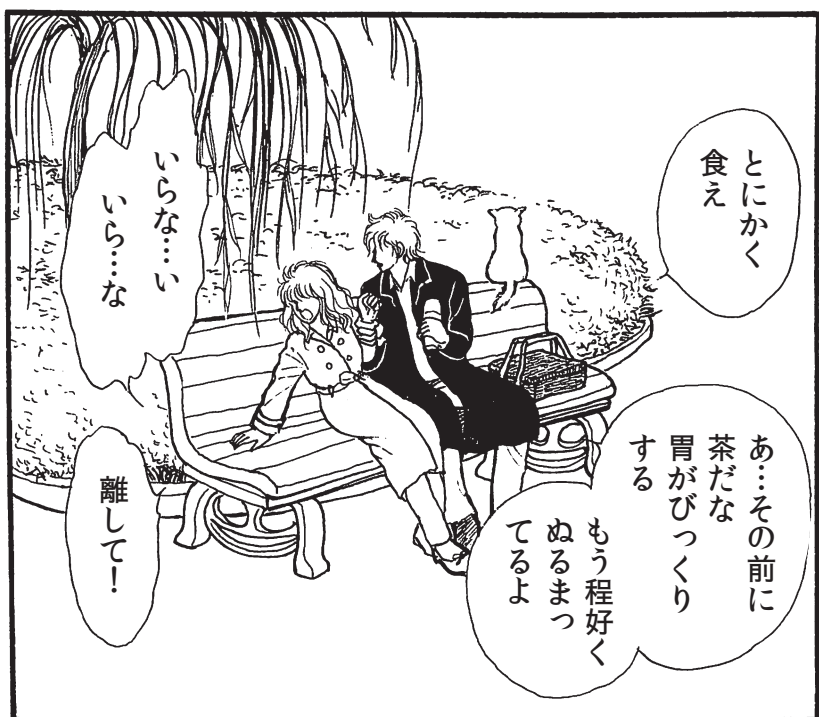
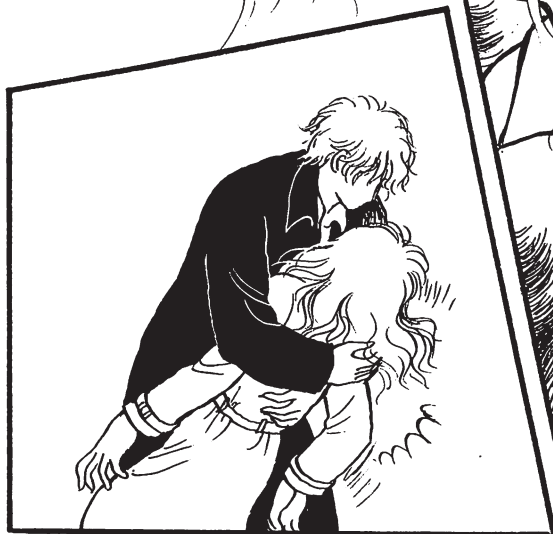
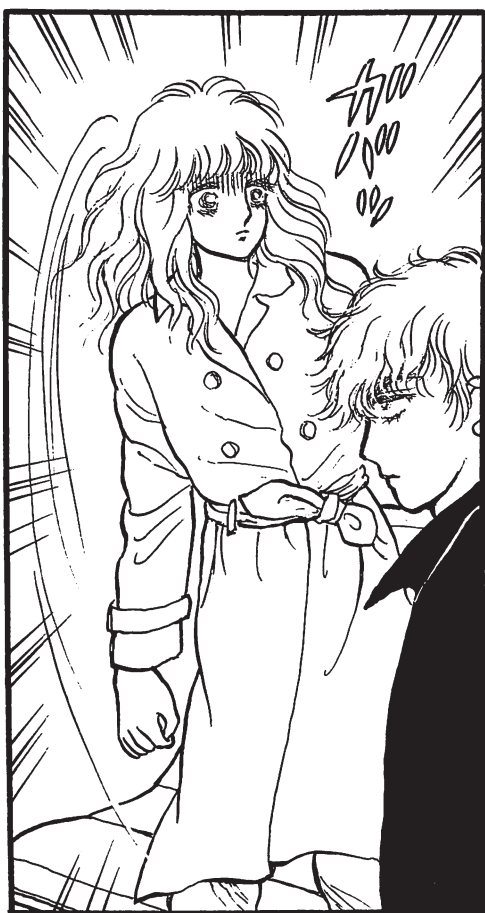
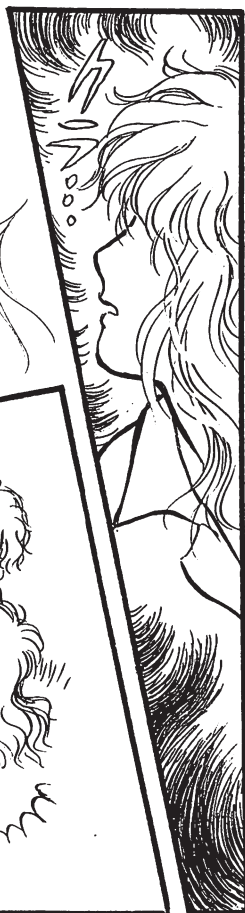
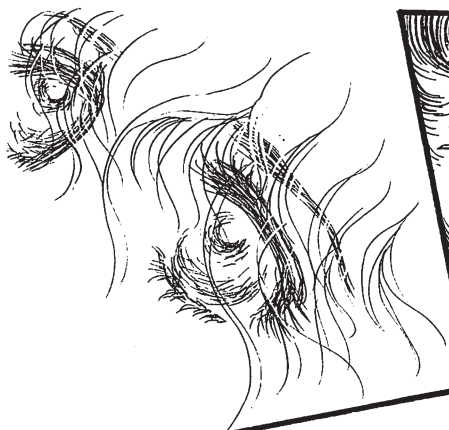


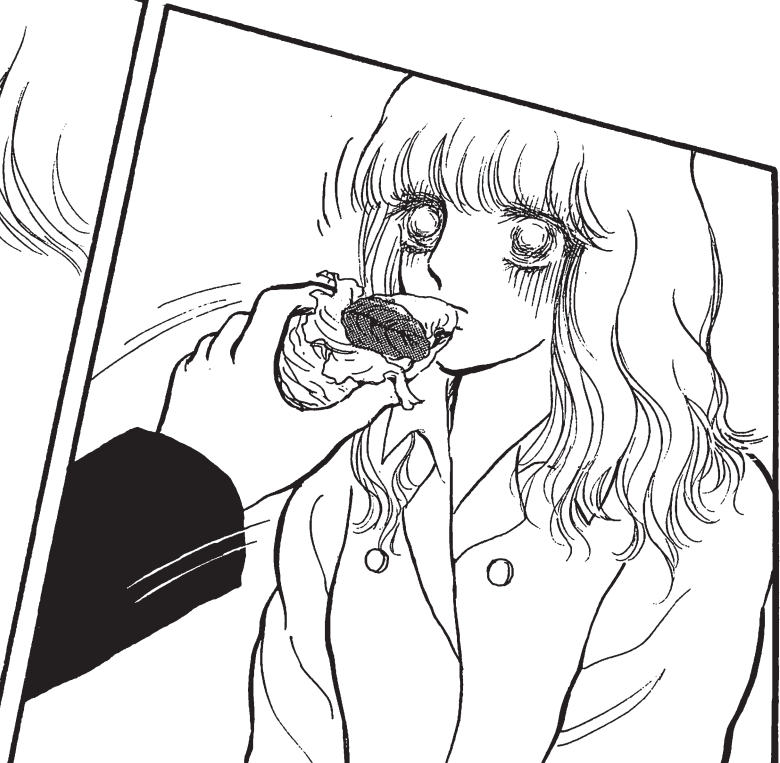
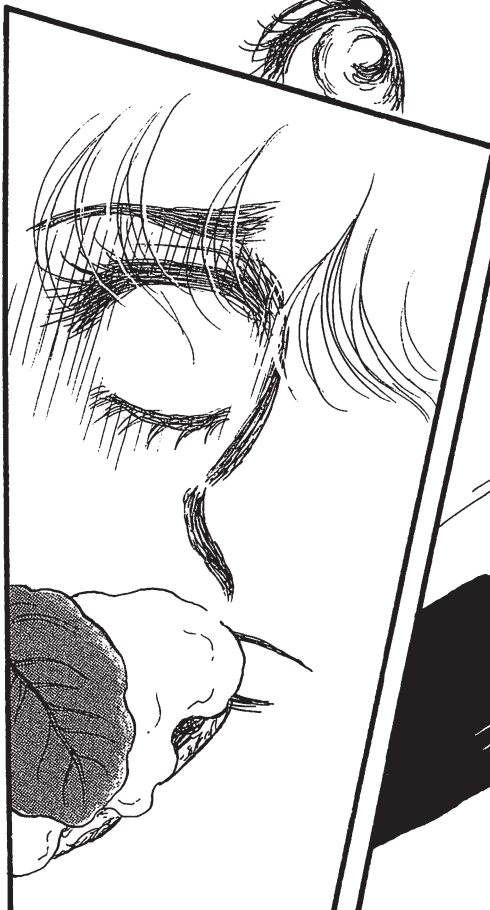
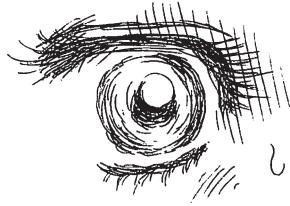


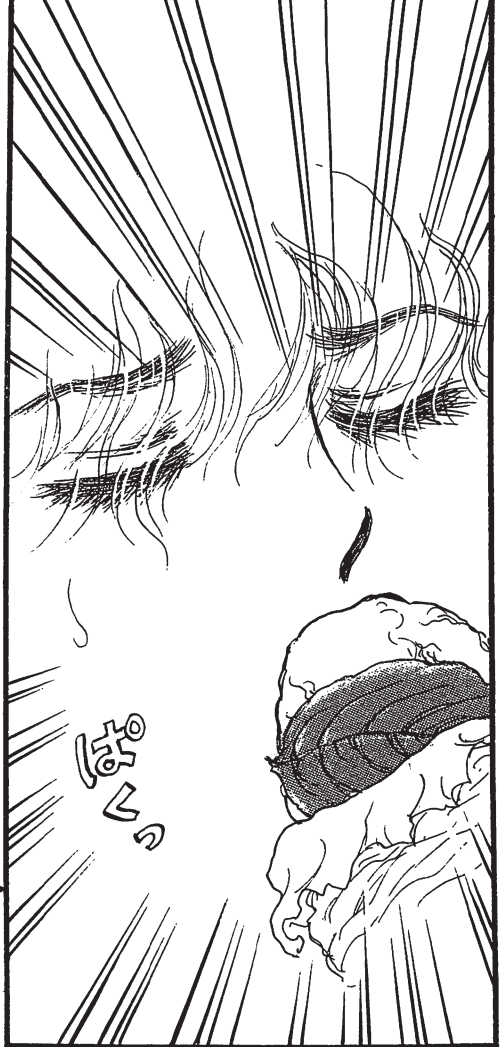
…チーズの
香り？



いやだな
食べ物のこと
ばかり…
考えてる







モグ モグ
モグ...

ブリン

なぜこんなの
食べてるんだ
私...

餓死した方が
ましなのに



きのう
おまえが...

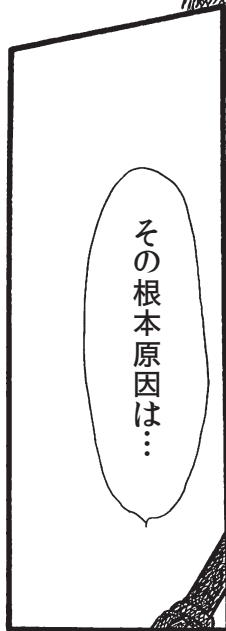
記憶を
失くしたのは

なぜかと
考えて
みたよ

それは—

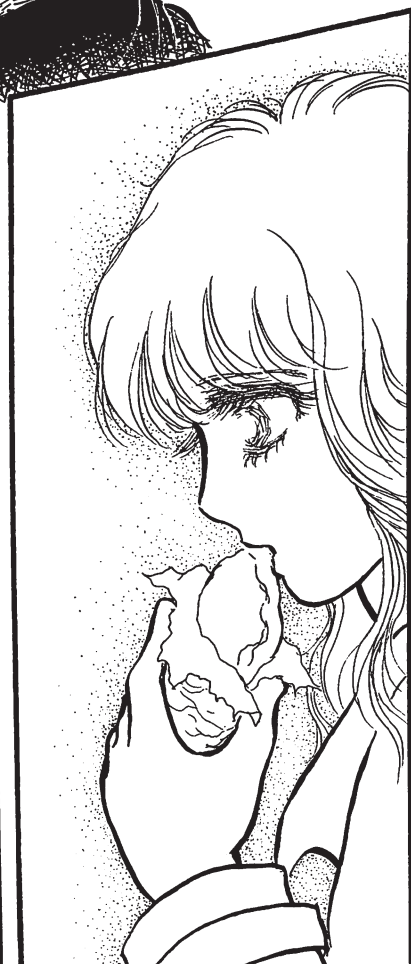


それは
おまえが記憶を
失くしたかった
からだろう



その根本原因は…

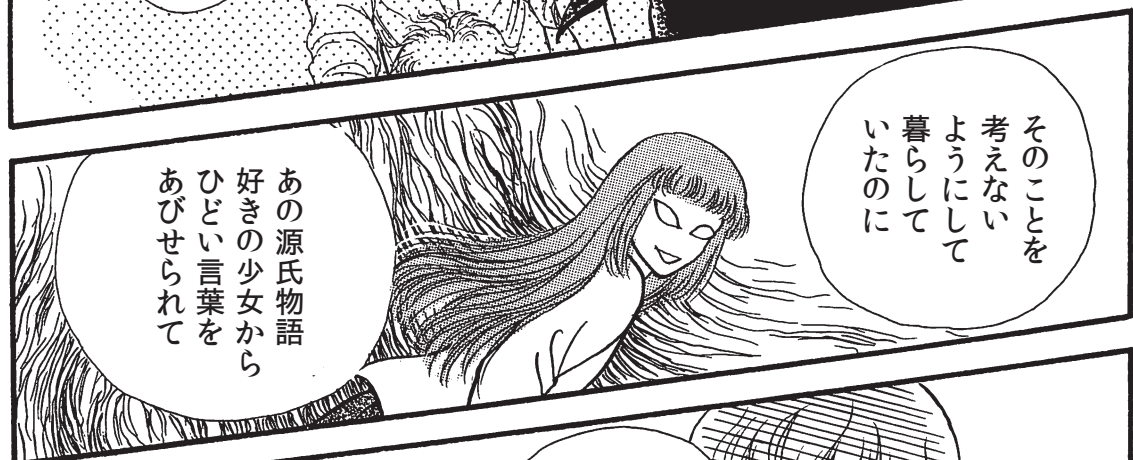
それほどに
おれとの生活が
つらくなつて
いたんだろうな





少女期に
流也から
性的虐待を
受けたと…

おまえが
思い込んでる
ことだろう



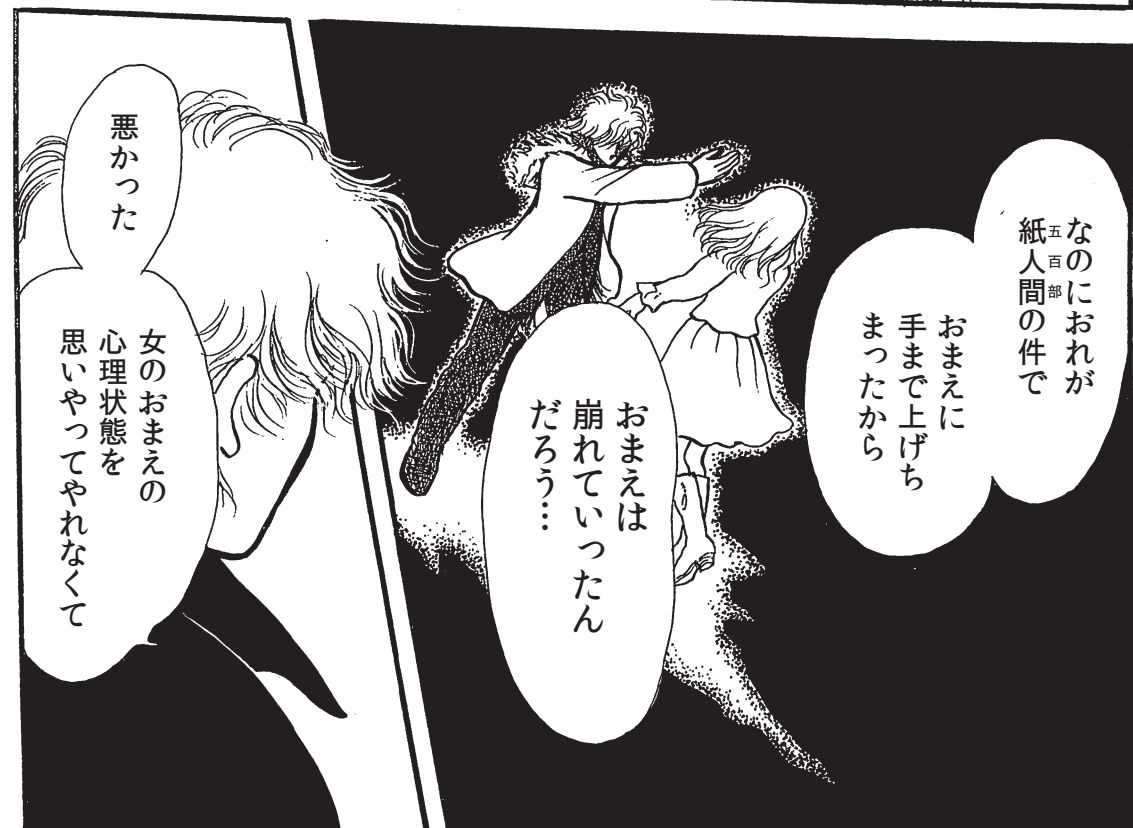
そのことを
考えない
ようにして
暮らして
いたのに

あの源氏物語
好きの少女から
ひどい言葉を
あびせられて



おまえは
自分を保て
なくなつて
いた

もう
どうにも…



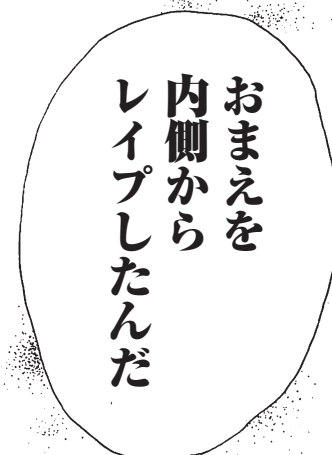
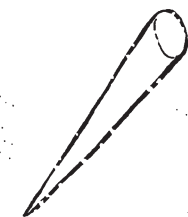
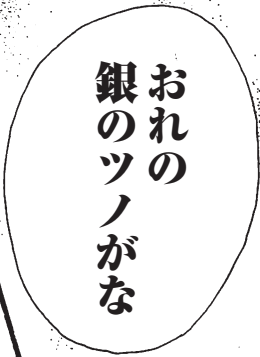
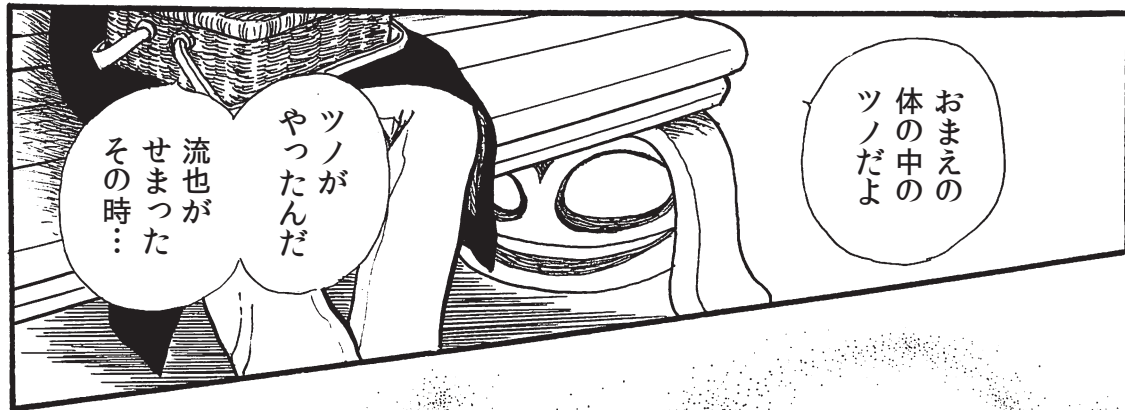
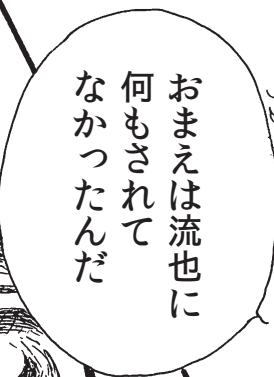
なのおれが
紙人間^{五百部}の件で

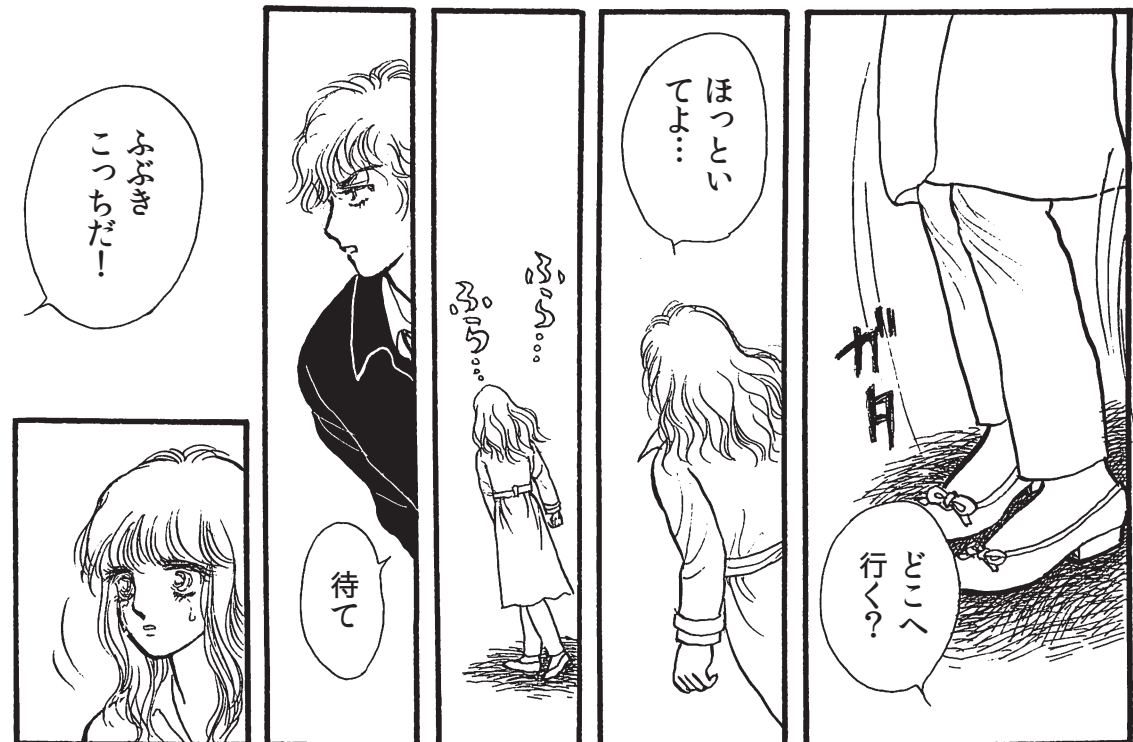
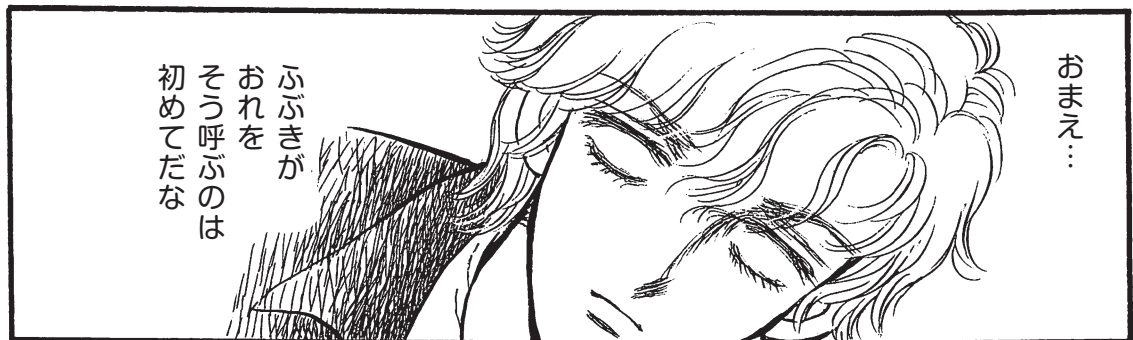
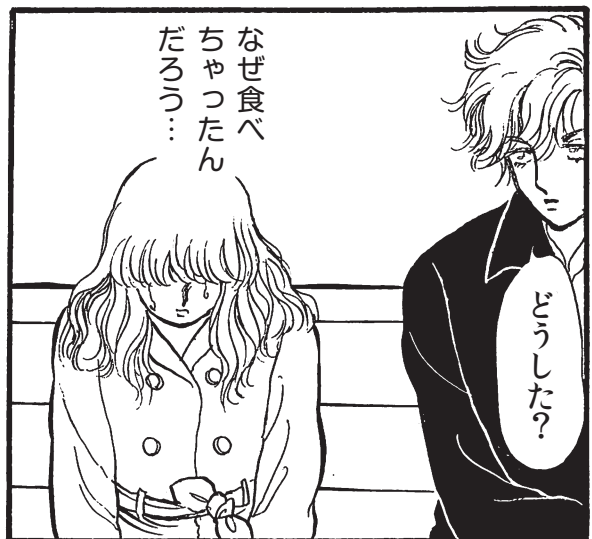
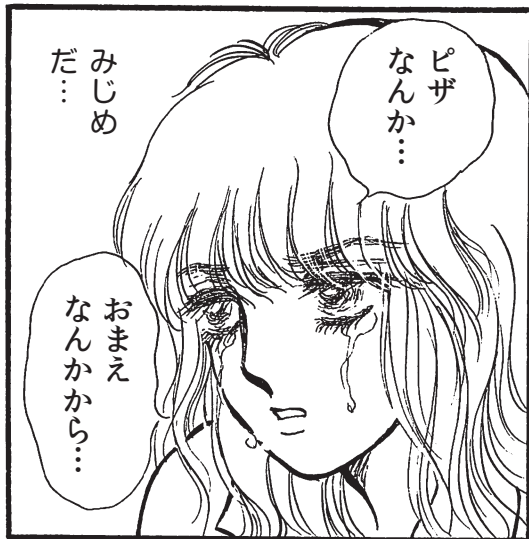
おまえに
手まで上げち
まったから

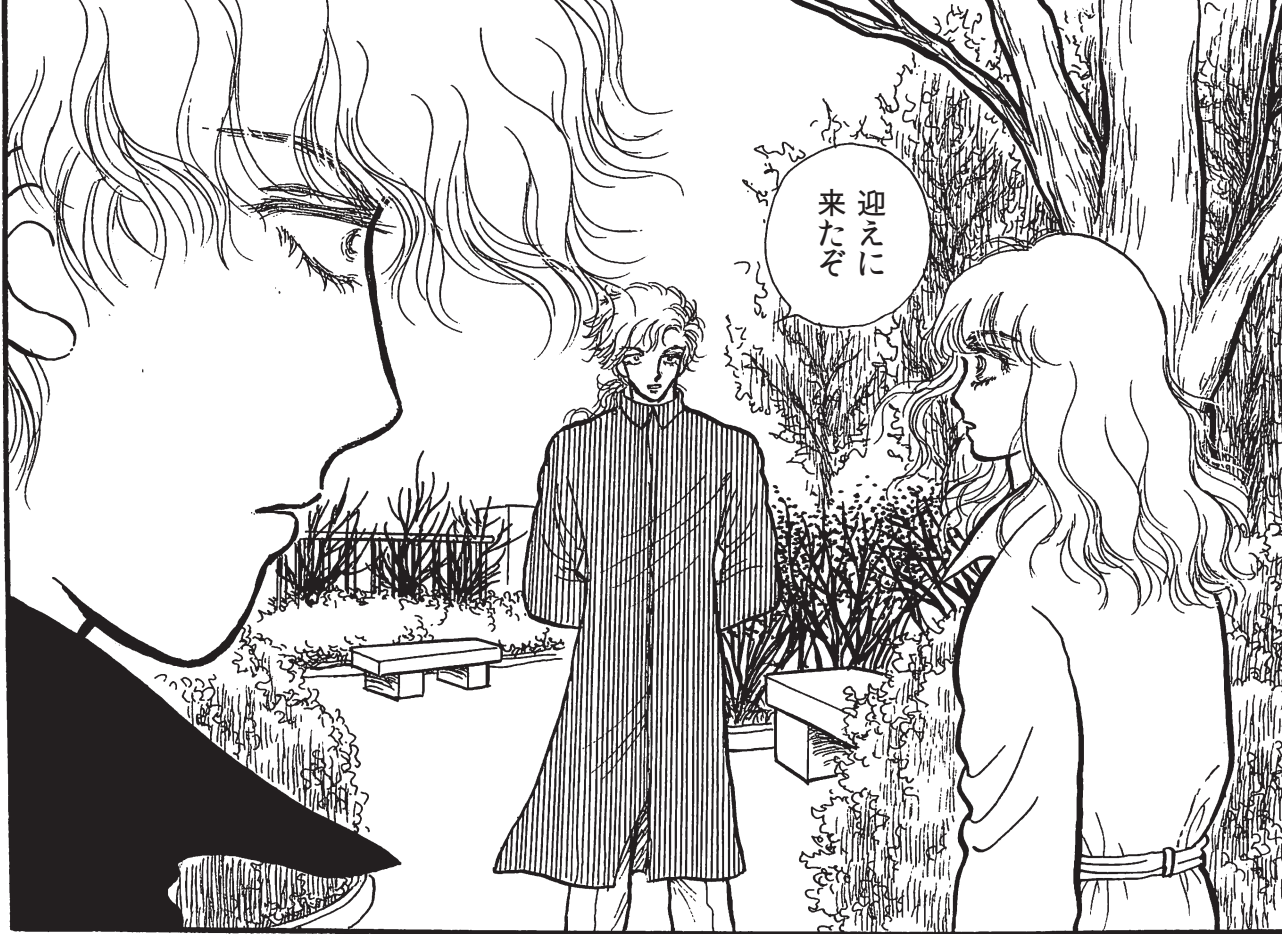
おまえは
崩れていったん
だろう…

悪かった

女のおまえの
心理状態を
思いやってやれなくて







迎え
来たぞ

そうか
昨日の紙人間五百部から
すべての記憶を
移されてるからな

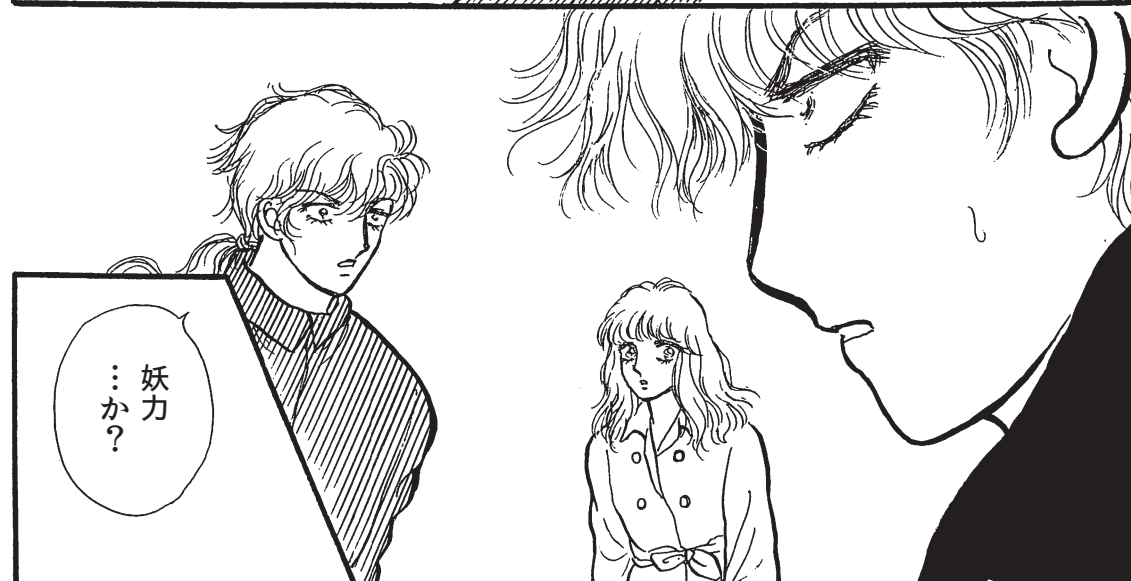
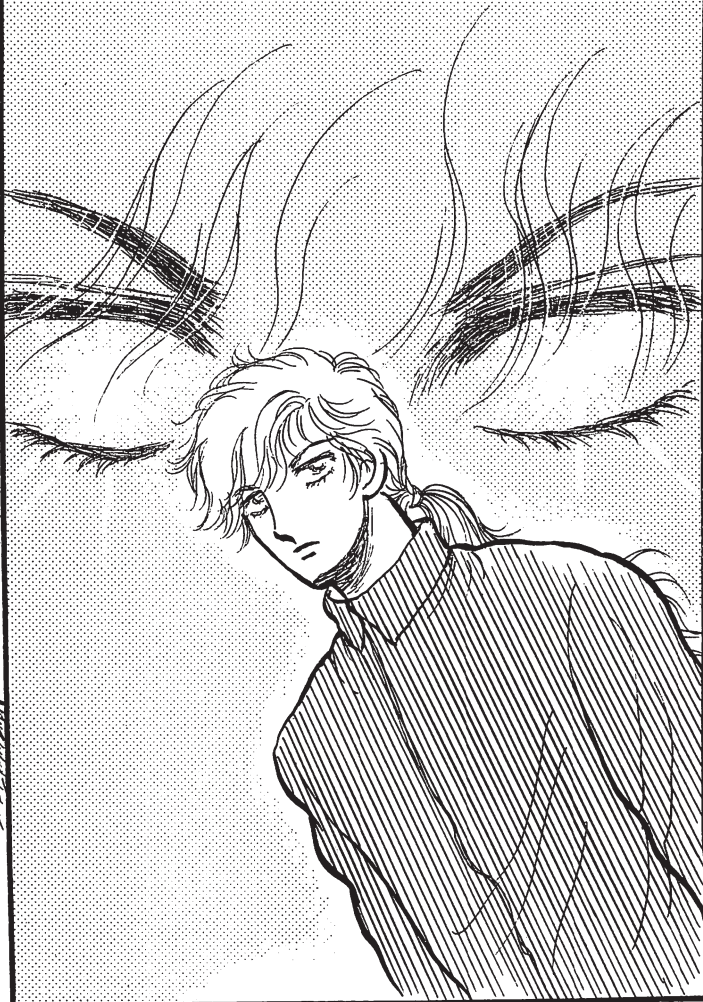
あいつは
うちの庭から
出現した！

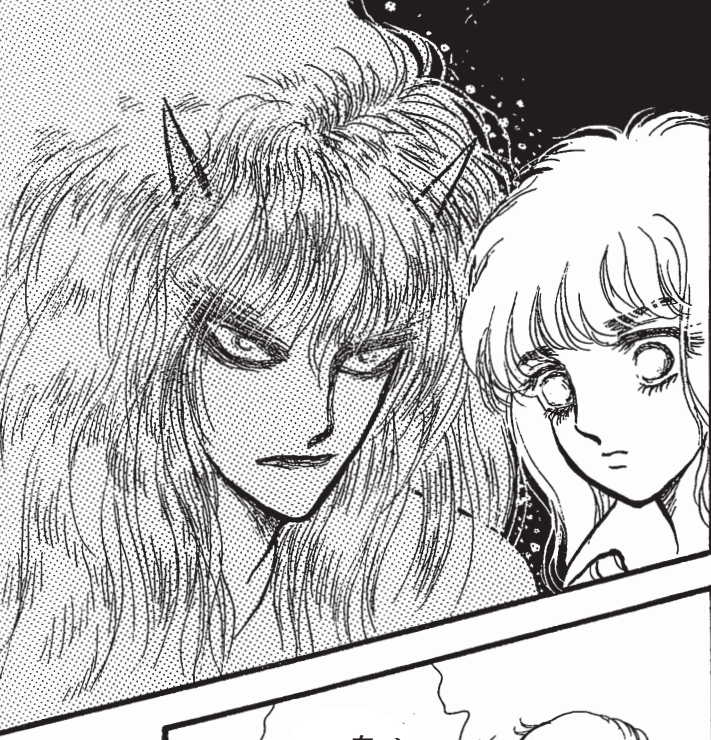
ふぶきから
離れろ
風祭！

おまえの家から
つけてきたさ

風祭

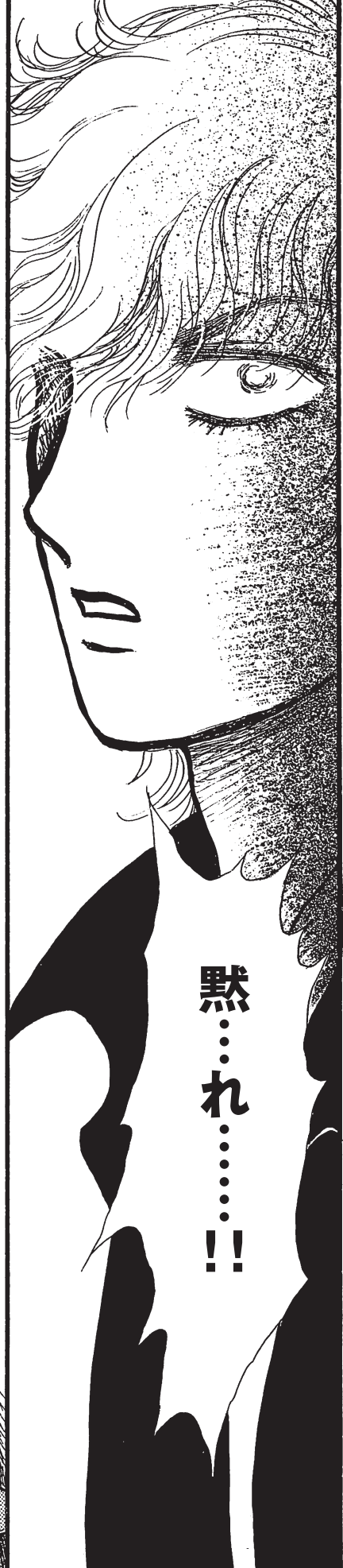
…どうやって
ここが…





鬼？

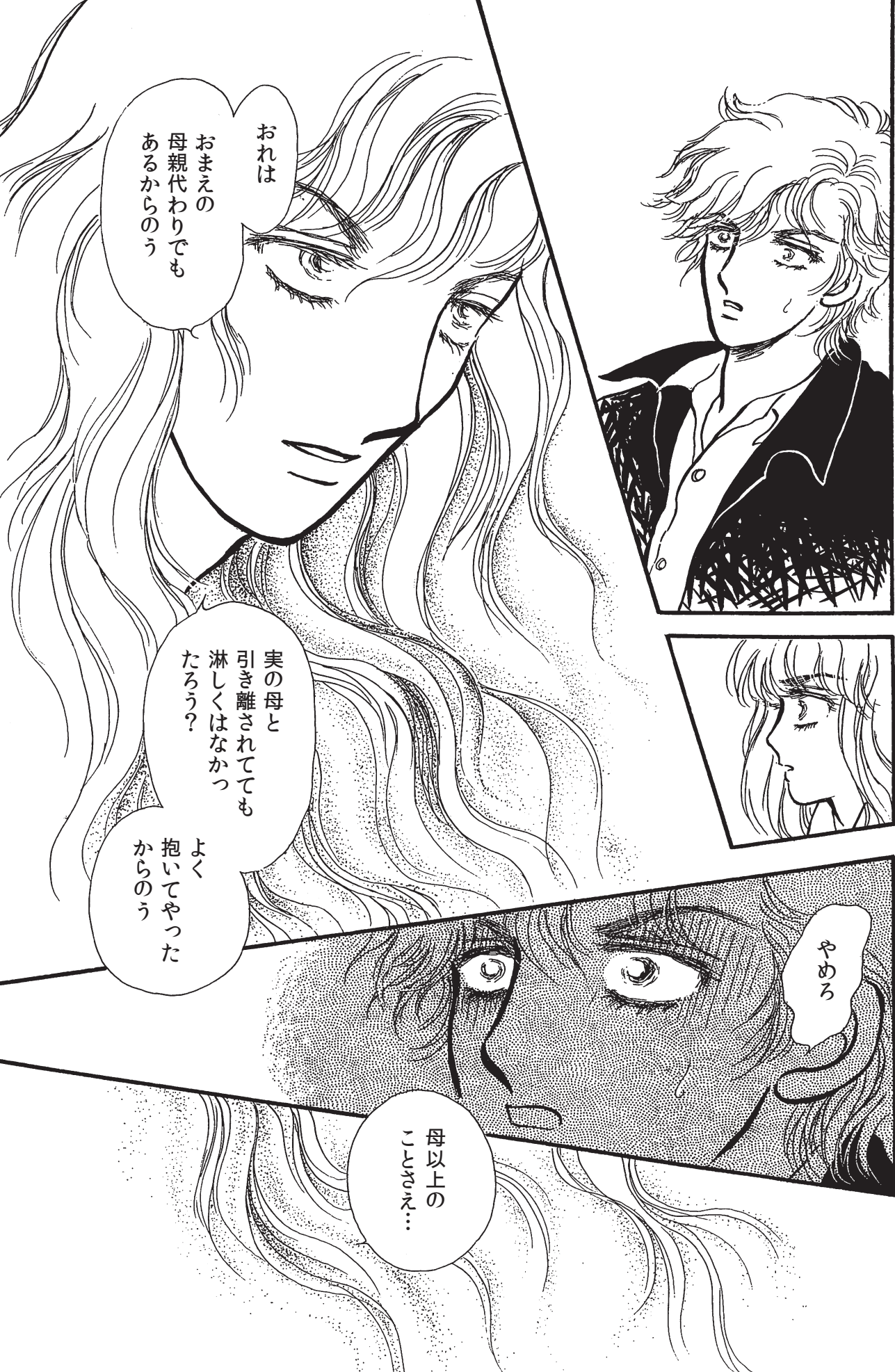






おれを
愛しながら

おれに
支配されたがつて
いるからだよ



おれは

おまえの
母親代わりでも
あるからのう

実の母と
引き離されてても
淋しくはなかつ
たろう？

よく
抱いてやった
からのう

やめろ

母以上の
ことさあ…

やめろ
—っ

ああ…愛する
母を殴れる
つもりかえ？



なぜだ？

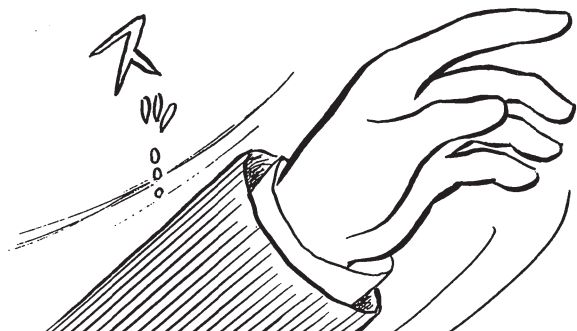
なぜ
殴れない？

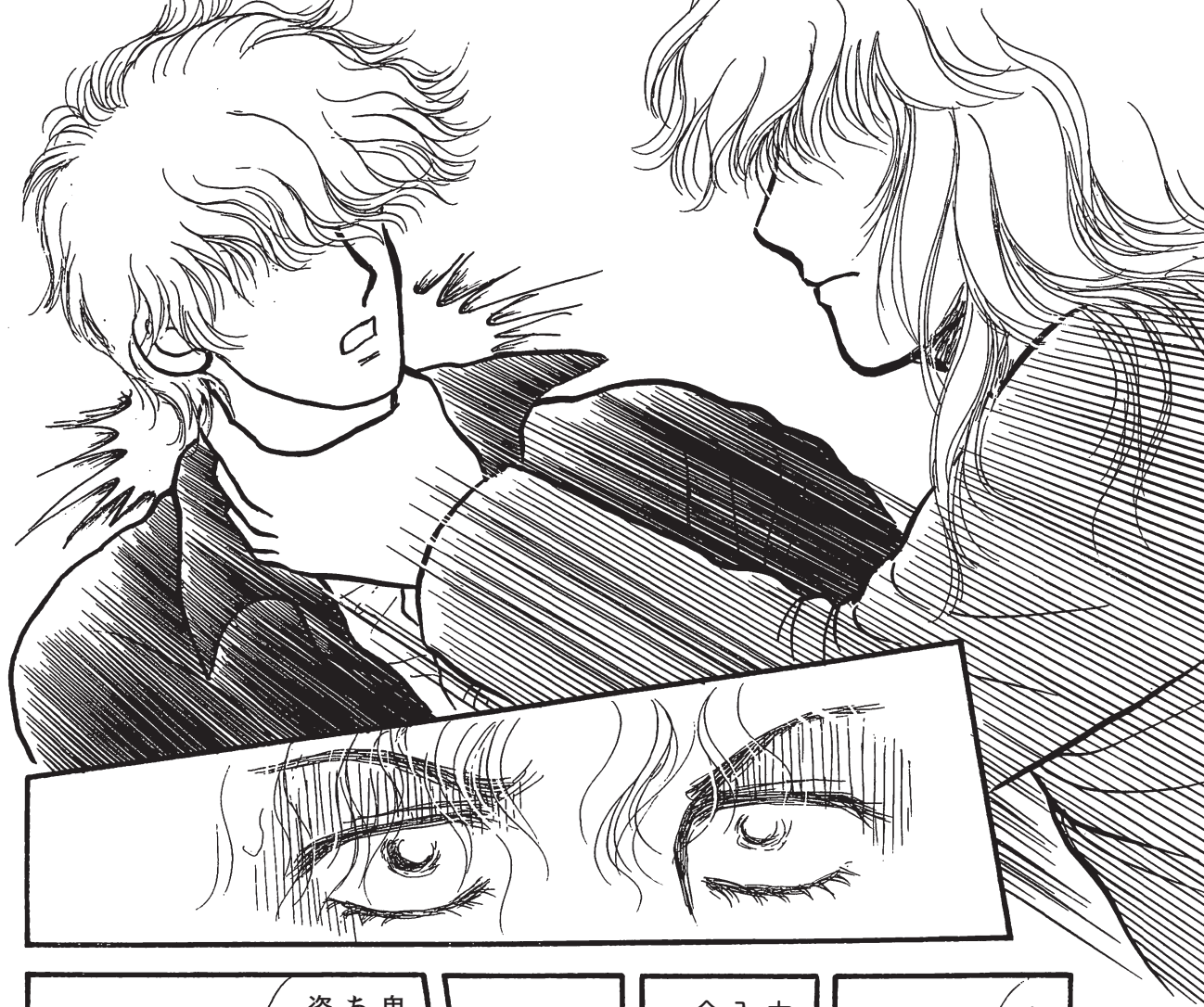
おれが…
おれが
愛してるのは
ふぶきだ

ふぶき
だけだ！

礼を
しないとな

そうそう
昨夜はふぶきが
さぞ世話に
なつたろうの？





どうした

なぜ抵抗せぬ？

どんどん
締めていくぞ

ほれ

力が
入らない
全然

どうしたんだ

鬼とも
あろう者の
姿かえ？

首を
締められて
もだえて
いるとはの

やめて！



私にやらせて!

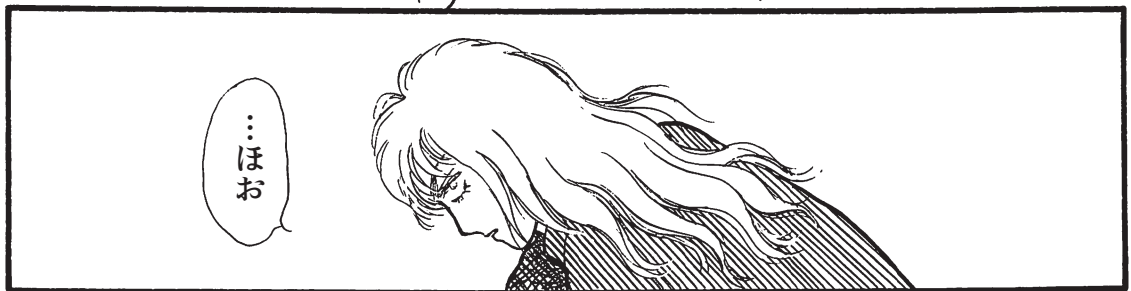
そいつを
殴らせて!



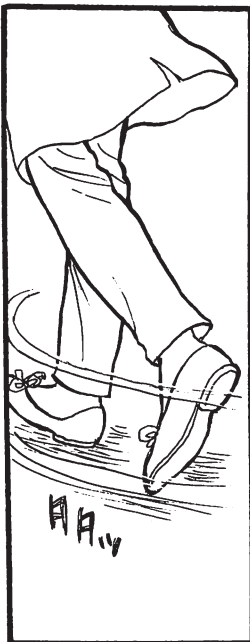
どうした
ふふき?

やはりこの男が
いいとしいと
でも?

違うわ!



…ほお



月A.4



やるがいい
ほら

